

<ニュースリリース>

2014年2月21日
米国研究製薬工業協会

米国研究製薬工業協会(PhRMA)

米国における糖尿病治療薬開発に関する最新報告書を発表

加盟のバイオ医薬品開発製薬企業が 180 種類の新治療薬を開発中

～この慢性疾患への取り組みで重要なのは、「イノベーション」と「服薬アドヒアランス」と提言～

※当資料は、米国研究製薬工業協会米国本部が、現地時間 2014 年 2 月 11 日に発表した報道資料の抄訳を日本でまとめたものです。

ワシントン、D.C.(2014年2月11日): 米国研究製薬工業協会(Pharmaceutical Research and Manufacturers of America: 以下、PhRMA)は、このほど米国における糖尿病治療薬開発に関する最新報告書(2014 REPORT: Medicines in Development For Diabetes)をまとめたことを発表しました。

この報告書によれば、同協会に加盟する米国のバイオ医薬品研究企業は、現在 180 種類の画期的な糖尿病新薬を開発中ですが、これによって世界中のおよそ 4 億人に上る糖尿病の患者さんを支援できるようになります。これら開発中の医薬品はすべてが臨床試験の過程にあるか、米国食品医薬品局(Food and Drug Administration: 以下、FDA)で審査中です。また、この中には 1 型糖尿病新薬が 30 種、2 型糖尿病用が 100 種、糖尿病関連疾患用が 52 種含まれます。

米国では、およそ 2600 万人が糖尿病に罹患しています。この疾病はアメリカ人の主な死因の一つであり、罹患者は急速に増加しています。米国保険福祉省の疾病管理予防センター(Centers for Disease Control and Prevention: CDC)によれば、米国成人の糖尿病の有病率は、この 20 年間で 45 パーセント増加しています。現時点では 10 人に 1 人の成人が糖尿病に罹患していますが、この状況が続くと、2050 年までには 3 人に 1 人が糖尿病を患うこととなります。

PhRMA のジョン・J・カステラニ理事長兼 CEO は次のように述べています。

「バイオ医薬品業界の専任研究者たちは、メディカルイノベーションシステム分野で他社との共同開発に取り組み、新しい革新的な治療法の選択肢を拡げ、糖尿病という世界的な難問に立ち向かうべく努力を続けています。現在開発中の 180 種類の医薬品は、これに関わる人々の協力により、世界中の糖尿病患者さんへの福音となるのはもちろんのこと、公衆衛生、そして医療経済分野における多大な経費負担を軽減することができる、という大きな希望を与えてくれる存在なのです」

最新報告書では、この克服することが難しい慢性疾患に取り組む上での、様々な革新的医薬品や治療法を紹介しています。以下はその一例です。

- ・2 型糖尿病のグルコース依存性インスリン分泌を改善する医薬品。
- ・糖尿病性神経障害に關与する酵素の抑制を目的とした医薬品。
- ・1 型糖尿病のインスリン産生細胞の再生を促進および強化することを目的とした治療法。

米国糖尿病協会 (American Diabetes Association) によれば、米国の糖尿病のほとんどは 2 型糖尿病で、患者さんの体内では、糖やデンプンを処理するのに必要なホルモンであるインスリンの産生が不十分となったり、適切に使用できなくなったりします。また、全体の 5 パーセントから 10 パーセントを占める 1 型糖尿病の場合は、体内でインスリンを全く産生しなくなります。糖尿病は複雑な慢性疾患で、一貫した治療により血糖値をコントロールし、腎不全、循環器疾患、手足の切断といった急性または慢性の糖尿病合併症を予防する必要があります。ただし現在では、食事、運動、投薬などの正しい治療計画で糖尿病をコントロールすることが可能となっています。

糖尿病新薬の発見と開発の最大の難関の一つは、糖尿病を誘発する可能性が高い生物学的標的を特定し、検証することです。国立衛生研究所 (National Institutes of Health: NIH)、バイオ医薬品研究企業 10 社、PhRMA、複数の非営利の糖尿病財団などにより新たに創設されたパブリック・プライベート・パートナーシップは、特定疾患の新しい診断法や治療法開発を目的とした現行モデルの変革を目指しています。

さらに、医薬品開発加速パートナーシップ (Accelerating Medicines Partnership: AMP) が、糖尿病などの三大疾患に重点を置いた 3 年から 5 年がかりのパイロット・プロジェクトを立ち上げることになっています。

これら疾患の転帰に關連する悲惨な人的損害はもちろんのこと、糖尿病の経済的影響は膨大です。米国国内で診断された糖尿病の推定医療費の総計は 2012 年単独で、直接医療費の 1760 億ドルと生産性減少分の 690 億ドルを含めた 2450 億ドルでした。米国糖尿病学会によると、これは推定値が 1740 億ドルだった 2007 年に比べて 41 パーセントの上昇になります。

医薬品の服薬アドヒアランスが改善されれば、糖尿病に關連する財政的負担が低減し、医療効果を高めることができるようになります。最近の研究では、患者さんが糖尿病の処方レジメンをきちんと順守すれば、全医療費が有意に減少し、救急外来の受診数や入院日数が減少することが分かっています。

カステラニ理事長兼 CEO はこう結論付けています。

「糖尿病関連の諸経費の多くは、かけなくても済むものです。医療における服薬アドヒアランスを改善することは、患者さんにとってはより良い成果を、また私たちの医療制度にとっては、より大きな価値をもたらしてくれる絶好の機会の一つなのです」

糖尿病治療薬開発に関する最新報告書 (2014 REPORT: Medicines in Development For Diabetes) は、以下の URL より閲覧可能です (英文のみ)

<http://www.phrma.org/sites/default/files/pdf/diabetes2014.pdf>

● 米国研究製薬工業協会 (PhRMA)

PhRMA は、米国で事業を行なっている主要な研究開発志向型製薬企業とバイオテクノロジー企業を代表する団体です。加盟企業は新薬の発見・開発を通じて、患者さんがより長く、より健全で活動的に暮らせるよう、先頭に立って新しい治療法を探求しています。加盟企業の新薬研究開発に対する 2012 年の投資額は約 485 億ドルで、これは加盟企業総売上高の 20.7%にあたります。また、米国における R&D 投資総額の 21%が製薬業界によるものです。

● 米国研究製薬工業協会 (PhRMA) 東京オフィス

PhRMA 東京オフィスは、米国の研究開発志向型製薬企業の日本法人で構成されており、画期的新薬が開発できる環境や患者さん中心の医療制度の確立に向けて 25 年以上に渡って活動を続けています。加盟企業は、アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社、アツヴィ合同会社、MSD 株式会社、セルジーン株式会社、日本イーライリリー株式会社、バイオジェン・アイデック・ジャパン株式会社、ファイザー株式会社、プリストル・マイヤーズ株式会社、ムンディファーマ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社 (五十音順) の 10 社です。

- PhRMA 東京オフィスホームページ <http://www.phrma-jp.org>
- PhRMA ホームページ <http://www.phrma.org>

【本件に関するお問い合わせ】

米国研究製薬工業協会 (PhRMA) 広報事務局
(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)

TEL: 03-3291-0118

FAX: 03-3291-0223

E-mail: phrma_pr@jc-inc.co.jp

担当: 村田/細川/青木

〒101-0065 東京都千代田区西神田1-3-6 ウエタケビル4F